

擁壁

ASUZAC

Contents

ポラメッシュ (垂直擁壁)	P.038	バイコン 基礎ブロック3・4・5 (省力化積みブロック関連パーツ)	P.073
しずか (ポーラスコンクリート大型ブロック)	P.046	バイコン 小口止めブロック (省力化積みブロック関連パーツ)	P.076
うらかたくん (大型ブロック積擁壁 専用裏型枠付)	P.050	テラセル擁壁工法	P.079
CKフォーム (かご式残存型枠擁壁)	P.056	箱型擁壁工法 (フリーウォール)	P.083
ヘキサゴン (レベル積み曲線安全施工ブロック)	P.062	テールアルメ工法	P.087
積みブロック	P.065	テンサー工法 (盛土・地盤補強用ジオグリッド)	P.091
クイックブロック (省力化積みブロック)	P.067	EPS工法 (発泡スチロール土木工法)	P.095
クイックブロック調整パネル (省力化積みブロック関連パーツ)	P.071		

箱型擁壁工法

耐震性能・排水性能が高い多機能型擁壁



特長

1. フレキシブルな構造であるため、地震時の土圧に対して壁体が微小に挙動することで発生する応力を減少させ、擁壁のひび割れや崩壊を防止します。また、地盤反力が比較的小さく、基礎地盤、背面土の不同沈下にも追従性を発揮して、擁壁全体の安定性を保持します。
2. 単粒度砕石の層は極めて排水性が高く、必然的に背面土の安定性が図れます。
3. 施工現場では、鉄筋、コンクリート、型枠などの特殊作業をほとんど使用しないため、施工計画が立てやすく、又、養生期間が不要なため大幅な工期短縮によって経済性の向上が図れます。
4. 勾配設定の自由度が高く、コーナー部・曲線部の施工が容易です。
5. 壁体内部の中詰材が単粒度砕石なので背面よりの浸透水、湧水に対する速やかな集水・排水性が高く壁体への影響を大幅に軽減することができます。
6. 各小段を利用しての植栽、あるいは自然緑化等で生態系保全にも配慮できます。また小段は、けもの等の通り道、斜面落雪の緩和、車両走行の視線誘導、カーブの視界障害の軽減といった様々な特性があります。

L型擁壁

擁壁

のり面

張出製品

河川製品

ため池

ボックス

パイプ付管

マンホール

側溝

道路製品

水路製品

貯留システム

石材

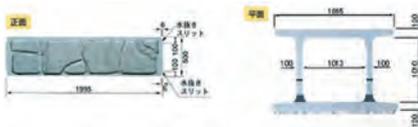
付録

製品寸法図

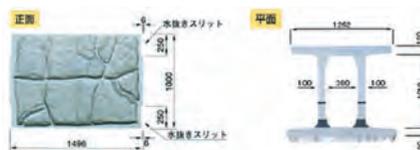
[Lタイプ A型] H1000 × L2000 × W1250
参考重量 (標準模様) 1304kg



[Lタイプ Ah型] H500 × L2000 × W1250
参考重量 (標準模様) 784kg



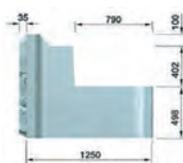
[Lタイプ B型] H1000 × L1500 × W1250
参考重量 (標準模様) 1028kg



[Lタイプ Bh型] H500 × L1500 × W1250
参考重量 (標準模様) 612kg



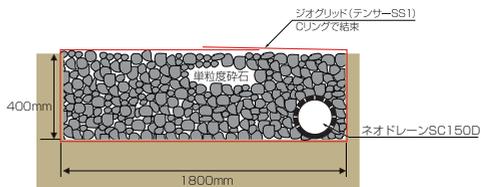
A・B型共通側面



箱型擁壁工法の施工方法

① 基礎工

床掘した基礎底面の延長方向に、幅 4m の基礎砕石拘束材「かごテンサー」を 30cm 以上ラップさせて敷設し、暗渠パイプを設置してから 基礎の単粒度砕石 (S-40 以上) の敷きならしと締め固めを厚さ 20cm ごとにランマー等で行います。続いてかごテンサーのラップ長を確保し、単粒度砕石をふとん状に巻き込み拘束します。



② 据付工 最下段箱体 of 据付

最下段箱体の据付は、締め固めた基礎の単粒度砕石上に、丁張り水糸を基準として通りと高さおよび水準器を用いて、水平と縦断を調節しながら、所定のトラッククレーンまたは吊り上げ重機を用いて据付します。



③ 中詰・裏込材の締め固め

最下段箱体の据付後、直ちに中詰・裏込材を厚さ 25cm ごとに入れ、ランマー等で十分に締め固めを行います。

盛土の場合においては、盛土の転圧も十分に行います。(背面土も上位段の基礎部となります。)



④ 据付工 2 段目以降箱体の据付 2 段目以降箱体の据付

最下段が完了したら、次の段の小段巾を設計図で確認し、丁張り水糸を基準として通りと高さおよび水準器を用いて、水平と縦断を調節しながら、箱体を延長方向に据え付け、中詰材および裏込材の充填と締め固めを行い、所定の段数を積み上げます。



⑤ 端部処理について

端部の碎石の流出を防止するために端部止めを行います。端部止めは、製品を反転使用することにより、現場打ち等の端部止めコンクリート打設の必要がありません。

